



47 常夜灯(庭瀬港跡)

本町公民館北(庭瀬749-3)



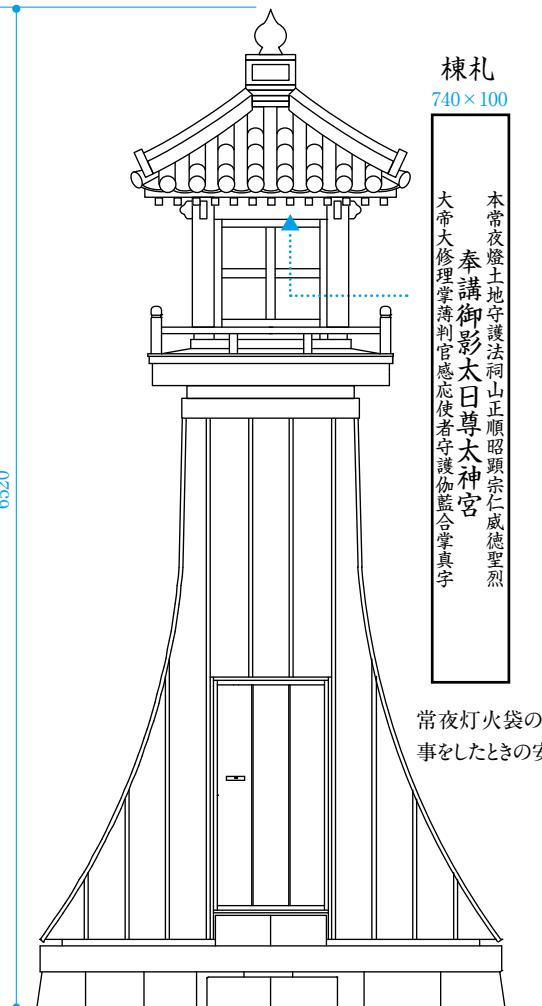
庭瀬港は建久3年(1192)頃から重要な港として利用されてきた。庭瀬城の外堀でもある南側は石垣のみ。北側は陣屋町の船着き場でもある雁木がある。庭瀬港は飛鳥時代(6世紀頃)には吉備津(宮内)の外港であった。

平安時代には港の機能は庭瀬に移り、東高梁川がせき止められて十二箇郷用水として整備されて新田開発が行われ、慶長年間の末には延友が外港になった。



川の南側は外堀のため石垣のみで、北側は庭瀬陣屋町の特徴である石段があります。

表御門跡の石垣も往時を偲ばせてくれます。表御門は廃藩置県の時、東花尻の立成寺に移築され、現在山門として残されています。

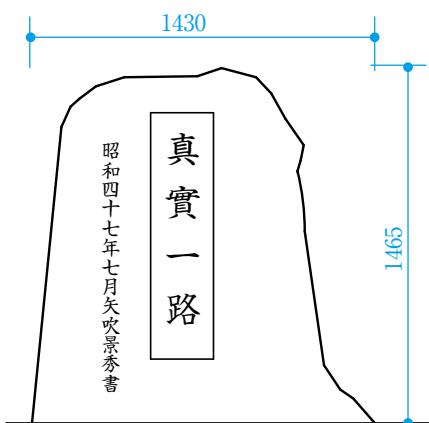


常夜灯

西暦 和暦 出来事

1699	元禄12年	板倉重高庭瀬藩主となる。
1700	元禄13年	本町の常夜灯が建設された。
1798	寛政10年	野崎家が船問屋として庭瀬藩より独占許可を得る。
1818	文化12年	水路が小舟でも通行できなくなり浚渫作業をする。 …6m×15mの船の残骸。人骨12、馬骨9、銅鉄片々、鎧甲…
1818～文政年間	本町の常夜灯が修善された。(1818～1830)	
1830	文政12年	吉岡屋が屋敷内に住吉神社を祀り、専用航路を作る。 吉岡屋は油・穀物等を扱い財をなした。
1954	昭和29年	台風により常夜灯が破壊され、撤去された。(9月26日)
2007	平成19年	岡山市の町並み整備事業として復元された。(19年10月) 礎石は創建時のものであるが位置は現在の道路法に基づき、 北東に約2m移動している。 ※常夜灯は現代の街灯、燈台の役目。光源は「菜種油」燈芯は 天然蘭草の芯。イグサは別名燈芯草(とうしんぐさ)と言われる。 現在の栽培イグサは細すぎて燈芯には適さない。
2020	令和2年	外壁焼杉板を修復

常夜灯火袋の小屋梁の下面に、平成19年に復元工事をしたときの安泰を祈願した棟札がある。



石碑

石碑「真実一路」について

常夜灯の南隣りの本町公民館の敷地内にある石碑。1954(昭和29)年に山本有三の同名の小説が映画化され、その名が広まった。

昭和47年、本町の住民がその理想を目指して進もうと、当時の法正山信城寺の住職矢吹景秀の揮毫により、この碑をたてた。

その後、平成18年建物の新築移転に伴い、廃棄する計画を高橋浩郎氏の強い希望によりここに移設した。標題の「真実一路」は北原白秋の詞「巡礼」からとった。

真実 蹄メタダヒトリ 真実一路ノタビヲユク
真実一路ノ旅ナレド 真実 鈴フリ思ヒダス

矢吹景秀について

妹尾町に在った元亀元(1570)年から明治5(1872)年まで300年余続いた私塾(寺子屋)矢吹学舎を主宰する矢吹家の末裔。学舎は矢吹家の転居と共に移転しその地名に従ってそれぞれ、今寺学舎、上寺学舎、和田学舎、白浜学舎と呼ばれ、現在は跡地に碑がある。2013年7月(森安 哲彦)

